

■H26年度リハビリテーション技術支援モデル事業報告【七尾市・中能登町】

	実施主体	徳充会 さいこうえんの障害者生活支援センター（市から相談支援事業所へ委託）
事業内容	リハ技術支援に関する検討会等の実施	<p>①ケース支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難病(SCD): 医療機関から在宅復帰に向けた支援 ・脳性麻痺: 在宅における移乗機器(リフト)の支援 ・筋ジストロフィー: 在宅支援 ・脊髄損傷と下肢切断: 車椅子の検討と生活支援 ・二分脊椎: 在宅支援 <p>②合同ケース検討会の開催</p> <p>【参加者】 障害者相談支援専門員、七尾市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回合同検討会(9/2) 上記のケース2事例に関する検討 ・第2回合同検討会(12/15) 上記のケース4事例に関する検討 <p>③リハビリテーションセンター学習会・視察(8/5)</p> <p>【参加者】 障害者相談支援専門員 7名、七尾市 3名、中能登町 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハセンターの役割と連携について ・福祉用具、ほっとあんしんの家の見学
	リハ技術支援の啓発・普及	<p>①特別講演(2/20)</p> <p>【参加者】 障害者相談員、ケアマネ等</p> <p>演題:「リハビリテーションの視点で捉える利用者の全体像」</p> <p>講師: 東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 在宅総合ケアセンター 作業療法士 大越 満 氏</p> <p>②福祉用具の啓発事業(10/11)</p> <p>【参加者】 市民</p> <p>「七尾市民健康福祉まつり社会福祉大会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具の展示等
	その他の取り組み	<p>①先進地視察(11/20~21)</p> <p>【参加者】 障害者相談員 5名、市職員 2名、リハセンターOT 1名</p> <p>視察先:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県半田市障害者相談支援センター(基幹相談支援センター) ・日本福祉大学 福祉テクノロジーセンター
	モデル事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・市町担当者、相談支援専門員のリハビリテーション技術支援、リハビリテーション機器に関して理解が深まった。 ・市町担当者、相談支援専門員の連携が深まった。 ・リハ専門職(県リハ)の方に相談しやすくなった。 ・先進地の取り組みを聴き、地域との連携の大切さを再認識でき、今後、七尾市・中能登町でできることを考えるきっかけになった。 ・講演会を通して、参加者である相談支援専門員、市町担当者、福祉サービス事業所職員が、リハビリテーションの視点、訪問リハの取り組みについて理解できた。
	各地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・七尾市・中能登町のリハ専門職(病院)との連携を強化する必要がある。 ・個別支援、事例検討、県リハの助言を通して、相談支援専門員の支援技術、質の向上を図る必要がある。
	今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、七尾市で取り組んでいる地域包括ケアシステムや障害者を地域で支え合う仕組みづくりにおいて、訪問リハ等関係機関の連携強化等によるリハ技術支援のネットワークづくりにも取り組んでいきたい。

■H26年度リハビリテーション技術支援モデル事業報告【かほく市】

	実施主体	かほく市
事業内容	リハ技術支援に関する検討会等の実施	<p>①ケース支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィー：一般就労と一人暮らしに向けての支援 ・脳性麻痺：移動機器(電動車椅子)の導入支援 ・脳性麻痺：自立の高い在宅生活支援 ・重度身体障害児：人工呼吸器搭載バギー車の支援 <p>②勉強会の開催</p> <p>【参加者】 障害者相談員、福祉施設職員、介護支援専門員等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他職種連携の重要性とコーディネートの視点(11/18) 演題:「障害のある方の自立を踏まえた支援計画の作成手法」 講師: ケアマネウイズだいこんの花 社会福祉士 主任介護支援専門員 小島 操 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・自立度高く介護負担の軽減をはかる移乗動作実技演習(2/16) 講師: 金沢福祉用具情報プラザ 安田 秀一 氏 ほか
	リハ技術支援の啓発・普及	<p>①特別講演会(10/23) ※かほく市社会福祉大会に併せて</p> <p>【参加者】 市民</p> <p>演題:「自分らしい暮らしを実現するためのリハビリテーション」</p> <p>講師: 日本作業療法士協会 会長 兵庫県立総合リハビリテーション中央病院 リハ療法部 部長 中村 春基 氏</p>
	その他の取り組み	
モデル事業の効果		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具の利用等により、本人の自立心を生かしたサービス利用計画になることを学ぶことができた。 ・移乗動作の実技演習では、本人の持っている力を上手く活用し、介護者にとって負担のない方法を学ぶことができた。 ・専門職種が違っても、本人の自立を促す支援をしたいという思いは共通していることを再確認できた。
各地域の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・相談がないと、福祉用具等に関する情報提供の機会がない(確保されていない)。 ・意識しないと、自立の視点で支援プランを立てることをつい忘れがちである。
今後の取組み		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて県リハセンターと連携し、福祉用具等の勉強会・実技演習を実施。 ・地域課題を明確化するために、県リハセンターとの連携・協力体制を継続。

■H26年度リハビリテーション技術支援モデル事業報告【津幡町】

	実施主体	津幡町リハビリ連絡会（町から連絡会へ委託）
事業内容	リハ技術支援に関する検討会等の実施	<p>①リハ技術支援ケース検討会（12/3） 【参加者】 津幡町リハ連絡会メンバー、ケース担当の事業所職員 ・ICFの考え方からみたケース検討会1回目 ・パーキンソン氏病：在宅生活支援の内容検討 ファシリテーター兼アドバイザー：徳田ST</p> <p>②リハ技術支援ケース検討会（2/25） 【参加者】 津幡町リハ連絡会メンバー、ケース担当の事業所職員、病院Dr・リハ職 ・ICFの考え方からみたケース検討会2回目 ・軽度脳卒中患者の支援について考える 急性期・回復期・生活期の流れ方 ファシリテーター兼アドバイザー：徳田ST</p> <p>③リハ技術支援ケース検討会（3/25予定） 【参加者】 津幡町リハ連絡会メンバー、ケース担当の事業所職員 ファシリテーター兼アドバイザー：徳田ST</p>
	リハ技術支援の啓発・普及	<p>①特別講演（3/2） 演題：「リハビリテーション専門職と他職種との連携について」 講師：（有）ふらむはあとリハビリねっと（リリ・フィジオグループ） 理学療法士 安倍 浩之 氏</p>
	その他の取り組み	<p>①地域で勤務するリハ専門職のリハビリ連絡会を開催（4回開催） ・医療機関：みずほ病院 PT 4、河北中央病院 PT 3 ・通所リハ：うたき PT 2 ・特別養護老人ホーム：ふいらーじゅ PT 1 ・介護老人保健施設：ふいらーじゅ PT 4、OT4 ・行政：津幡町地域包括支援センター OT 1</p> <p>②施設職員、家族等を対象にした介護教室の開催（3回） ③小学校での車いす講習（4/13） ④町防災訓練（8/25） 車椅子利用者も避難訓練に参加し救助の仕方を指導 ⑤町介護予防教室講師（10/30） ⑥医療・福祉機器開発ニーズ紹介セミナーでの報告（1/21） 居宅高齢者が安全で機能的に作業できる安楽と机上作業が可能な椅子について</p> <p>※①～⑥はモデル事業とは別の取組です。</p>
	モデル事業の効果	顔の見える関係を作ってスムーズな連携が出来るように、立ち上げた会、より深まったICFで課題を整理できた 研修会での講義、今後のリハ専門職の方向性を共有しあえた。
	各地域の課題	在宅障害者の地域支援の課題把握ができていない。地域把握をする必要性を感じた。
	今後の取組み	リハ専門職が町では求められている。身近に相談したいというニーズが高い。 地域のニーズに合った、身近に相談できる地域に出て行けるリハ専門職になってほしい。

■H26年度リハビリテーション技術支援モデル事業報告【小松市】

	実施主体	障害者自立支援協議会事務局(育成会 こまつ障害者総合相談支援センター)
事業内容	リハ技術支援に関する検討会の実施	<p>①リハビリテーションセンターとの事例検討会(1/20) 【参加者】 障害者相談専門員 7名、小松市職員 2名 ・頸髄損傷: 電動車椅子の支援 ・脳血管障害: 車椅子の支援</p> <p>②医療機関との連携学習会 【参加者】 やわたメディカルセンターと障害者相談員 テーマ:「医療の現状と連携のあり方について」(2/19) アドバイザー: やわたメディカルセンター (MSW 林)</p> <p>テーマ:「訪問リハからみた地域生活の課題について(事例検討)」(3/25) アドバイザー: やわたメディカルセンター (MSW 林、訪問リハスタッフ3名)</p> <p>③リハビリテーションセンター学習会・視察(1/20) 【参加者】 障害者相談専門員 7名、小松市職員 2名 ・リハセンターの役割と連携について ・福祉用具、ほっとあんしんの家の見学</p>
	リハ技術支援の啓発・普及	<p>①特別講演会(3/19) 【参加者】 福祉サービス事業所、リハ専門職、特別支援学校、ケアマネ等 演題:「リハビリテーションにおける地域支援ネットワークを考える」 講師: やわたメディカルセンター 医師 西村 一志 先生</p> <p>②福祉用具の啓発事業(3/29予定) 【参加者】 市民 「小松市障がい者ふれあいフェスティバル」 ・福祉用具展示等</p>
	その他の取り組み	<p>①先進地視察(3/20-21) 【参加者】 障害者相談員、市職員等</p> <p>視察先: ・長野県の先進施設(基幹相談支援センター等) ・地域における連携のあり方や基幹センター機能を学ぶ</p>
	モデル事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・リハニーズの掘り起こしの必要性の確認と相談支援体制の整備の理解 ・県リハセンターとの技術連携の理解 ・最新福祉用具の知識向上 ・先進地視察による相談支援体制整備のための情報収集 ・地域の医療機関との連携強化(やわたメディカルセンター)
	各地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員とリハ関連機関との具体的連携の取り組みの少なさ。 ・障害者に対する相談体制、相談員や地域人材の育成が不十分である。
	今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・リハ関連機関やリハ専門医との実践ベースでの連携。 ・相談支援体制整備のための意見交換会を実施。 ・相談支援専門員や市との継続的な勉強会を実施